

アムスルだより

No.38 1999年 7月13日

Akajima Marine Science Laboratory 阿嘉島臨海研究所



〒901-3311 沖縄県島尻郡座間味村字阿嘉179

<http://www02.u-page.so-net.ne.jp/pb3/saburo>

TEL:098-987-2304 FAX:098-987-2875 E-mail:amsl@ryukyu.ne.jp



サンゴ礁の左官屋さん

-サンゴモ-

今年もサンゴの繁殖シーズンになり、海水も温かくなってきました。アムスルだよりでも何度かとりあげたとおり、去年の夏には、大規模な白化現象が起き、その結果、ほかの地域に比べると少なかったとは言え、慶良間周辺でも、たくさんのサンゴが死んでしまいました。けれども、死んだサンゴの骨は、無駄になることなく、新たなサンゴ礁を作るための材料になります。サンゴは、サンゴ礁を作るという面からも大切な生物なのです。そして、今回ご紹介するのも、サンゴ礁が作られるときにとても重要な役目を果たす生き物です。

その生き物の名前は、サンゴモといいます。漢字で書くと「珊瑚藻」、つまり海藻の仲間です。海藻というと、モズクやコンブなど柔らかいものを想像するかもしれませんが、サンゴモはそうではありません。石のようにかたくて、植物とはにわかには信じられないくらいです。というのも、サンゴモの体には、サンゴの骨格や貝殻、そしてみなさんの骨を作っているものと

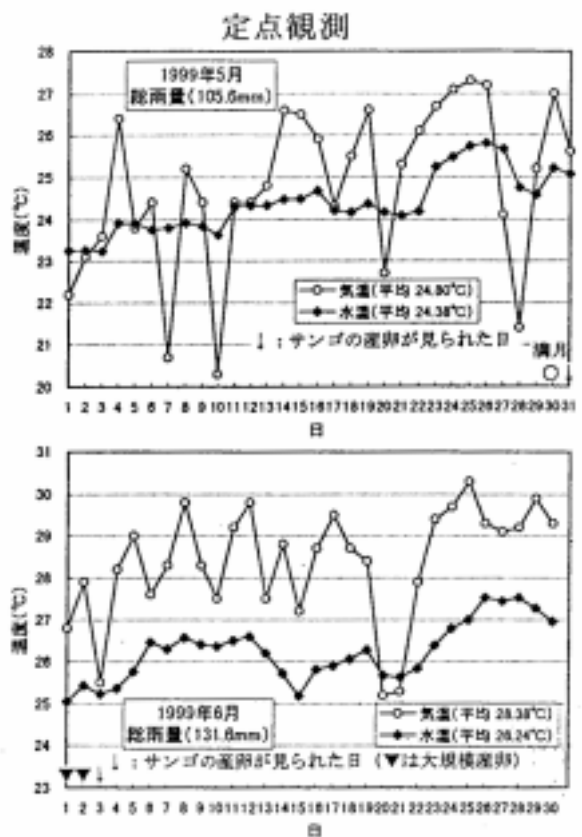
同じ炭酸カルシウムが含まれているからです。このように炭酸カルシウム(石灰)をもつ海藻のことを「石灰藻^{せっかいそう}」と呼び、阿嘉島周辺でも見られるサボテングサやカサノリなどが含まれます。サンゴモは其中でも特に炭酸カルシウムの量が多くて、全体の重さの95%を占める(つまり生きた組織はたったの5%)という報告もあるくらいです。サンゴモは、体に節が有るか無いかで有節サンゴモと無節サンゴモの2つに分けられます。サンゴ礁にとってより重要なのは無節サンゴモの方ですので、これからは無節サンゴモを中心にお話ししましょう(これからは無節サンゴモのことを単にサンゴモと呼ぶことにします)。

死んだサンゴのかけらや岩の上が赤やピンク、紫色のもので覆われているのをみなさんも見たことがあると思います。これらの多くはサンゴモの仲間で、平らに覆っているものだけでなく、中にはとげとげの樹枝状のものもいます。かたいサンゴモは、死んだサンゴを覆うように生長する事によって、少しこわれやすくなったサンゴの骨を補強したり、バラバラなかけらをつないだりして、ちょうど工事現場のセメントのような役割を果たしています。はじめにも述べたとおり、サンゴ礁にとってサンゴの骨はとても重要な材料ですが、サンゴモも、サンゴ礁を作るという

点で、サンゴに負けにくいくらい大きく貢献している生物なのです。ただし、その生長は遅くて、一年に直径で 1cm ほどしか大きくなれないといわれています。

サンゴモにはもう一つとてもおもしろい性質があります。みなさんも知っていると思いますが、生まれて間もないサンゴの幼生は海の中を漂うプランクトン生活をしていて、ある時、岩などにくっつき親サンゴと同じ体のつくりになって生活するようになります。このことを着生と呼びますが、最近の研究の結果、サンゴモに、このサンゴの幼生の着生を起こさせる物質が含まれていることがわかってきました。研究所でミドリイシの幼生を使って実験してみると、サンゴモを入れたものでは、もっとも良いときには 90% 以上の幼生が着生しました。ミドリイシは、かんたんに着生するような種類ではなく、サンゴモを入れないとほとんど着生しませんから、これはすごいことです。どうしてサンゴモがそのような物質をもっているのか、実は、まだその理由に関してはわかっていませんが、こうしたサンゴモの性質は、これから、人の手でサンゴを増やそうとするときなどに、大変役に立つことでしょう。

みなさんの中で、サンゴモのことをじっくりと見たことのある人は、ほとんどいないのではないのでしょうか。中にはただの汚れのようなものだと思っている人もいるかもしれません。スポットライトを浴びることの少ないサンゴモですが、サンゴ礁にとっては欠かすことのできないとても大切な生き物です。サンゴ礁の仕組みを知るためにも、これからますます詳しい研究を進めていかなければならない生き物の一つでしょう。



阿嘉島の海より

-サンゴの産卵アンケート調査-

今年は多くの産卵情報を得るために、サンゴの産卵アンケート調査を行っています。情報を送っていただいた方々、ありがとうございました。調査の結果、ミドリイシの一斉産卵は予想どおり 5 月 31 日～6 月 2 日(満月の 1～3 日後)に見られ、阿嘉島周辺でも場所によって産卵日がずれたことが分かりました。サンゴの産卵は 9 月頃まで続き、新月の頃に産卵する種類もいます。しかし、まだよく調べられてませんので、これからも調査へのご協力をお願い致します。

夏になり、海水浴をする人も増えてきました。海には危険な生物がいるので、どんな生物が危ないのか知っておく必要があります。そこで、研究所では夏の間、危険な生物を展示しますので、海水浴をされる方は見に来て下さい。